

学生・保護者・卒業生の皆様

日本大学医学部長
後藤田 卓志

学生・保護者・卒業生の皆様、あけましておめでとうございます。
日本大学医学部を代表し、ご挨拶申し上げます。

昨年の9月から、本学元理事の井ノ口忠男氏が背任容疑（①建替え計画背任事案、②医療機器導入背任事案）で、また前理事長の田中英壽氏が所得税法違反容疑でいずれも逮捕・起訴され、皆様には、多大なご心配をおかけしてしまい、大変申し訳なく思っております。日本大学医学部に拭い難い汚点を残してしまったことに、憤りを覚えておられる方々も多くいらっしゃるのとは当然のことと受け止めております。

そして、今回の事態において、何ら責任がないにもかかわらず肩身の狭い思いをしながらも、勉学・研究に励んでくれている学生・教職員の皆さまには心より感謝しております。

私を含め、本部理事・監事・評議員のみならず、医学部執行部・病院執行部としても、このような事態を招いてしまったことを深く反省しております。その後、加藤直人理事長・学長のもとで改革に向けて前を向いて進みだしております。今回の事案については、これまで法人監事の下に設置した調査チームによる調査が進んでおり、その経緯は逐一本学ホームページに掲載されておりますので、ご確認いただいていると存じます。

既に皆様もご存じのとおり、本学は昨年来、文部科学省から文書による指導通知を受けておりました。これは、本学前理事長、元理事が逮捕・起訴されたという事態に対し、本学が未だ事案の原因や全体像を明らかにすることができておらず、また具体的な再発防止策を示すことができていない状況に対する大変重い指導でした。文部科学省からは具体的な対応状況の報告が求められており、本年1月11日開催の臨時理事会の議を経て文部科学省へ提出いたしました回答については、その要旨を大学ホームページに掲載しておりますので、ご確認いただければと存じます。

私は、一昨年11月に医学部長に就任して以来、「正しいことを正しく行う」ことを初回の教授会で明言し、その信念に従って1年3ヶ月間、その任にあたって参りました。よって、今回の事案の舞台が医学部であったことを考えますと、医学部長の職責として何処かで止めることが出来なかったのかと痛恨の思いでおります。今後、二度とこのようなことを起こさせないようにするためには、なぜ今回のような事件を起こさせてしまったのか、なぜ防止できなかったのか、その原因を掘り下げて明らかにする必要があります。これについては、今後の調査により十分解明されるものと思っております。このような事態を招いた要因を取り除き、より一層学生中心の教学施策を推し進めるために、次の対策を講じていくことを加藤直人理事長・学長が表明されました。

- 1 前理事長及び元理事の影響力を排除し、これまでの管理運営体制を一新して参ります。
- 2 今回の事案の舞台となった株式会社日本大学事業部におけるこれまでの業務を精査し、清算を進めて参ります。
- 3 一連の事案の原因を究明し、責任の所在を明らかにし、再発防止を図るために、本学から独立した委員のみによって構成される第三者委員会を設置することといたしました。
- 4 本学を再生させるため、特定の者の専横を許さない健全な管理運営体制を構築するために、外部有識者による「日本大学再生会議」を組織し、本学の未来に向け、理事会・評議員会のあり方、学長選出方法、理事長の任期等、本学の管理運営体制等について提言をいただき、抜本的改革を進めて参ります。
- 5 今回の事案においては、残念ながら、公益通報制度が利用されませんでした。通報者の保護に対する懸念や通報したとしても真摯な調査はされないであろうという諦めがあったのかもしれませんが、そこで、現在の公益通報制度を見直し、実効性のあるものにするものとします。また、本法人の役員及び教職員のコンプライアンス意識の向上を図り、健全な学校法人運営を行っていくようにするため、「学校法人日本大学行動規範（仮称）」を策定します。

このほか、文部科学省への回答で述べた「教職員の採用、人事考課制度の在り方の検討」、
「法人の方針等検討組織の見直し」、「広報体制の検討」、「板橋病院の早期開院に向けた検討」
を行って、今回のような大学の経営やガバナンスが問題視される事案を決して再発させる
ことのないよう、信頼回復に努めて参ります。

文部科学省からは厳しい指導が出され、経常費補助金についても、減額や不交付が示唆され
れおり、本学は収入面でも非常に厳しい状況に立っております。学費の値上げ等について、
一部報道がされましたが、今回の不祥事の影響によって学費の値上げをするというような
ことは一切ありません。引き続き、教育、研究機関としての役割を今一度自覚し、何よりも
学生のために何ができるかということを第一とし、学生・保護者・卒業生の皆様を含め関係
する者全員がすばらしい組織であると誇れる体制を築き上げるべく、誠心誠意努力して参
ります。「自主創造」に則り、学生が、自ら学び、自ら考え、自ら道を切り開いていくのを
支援することに一層力を入れて参ります。今回の難局を乗り切るためには、教職員一同が一
丸となって改革に取り組んで参ります。そして、日本大学が社会に広く貢献できる存在であ
り続けるために、学生・保護者・卒業生、そして教職員が誇れる日本大学を再生し、誇りあ
る医学部とするために、是非とも積極的なご協力ならびにご尽力を賜りたく、お願いいたし
ます。

以 上